

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500392
法人名	社会福祉法人 大川鶴喉会
事業所名	グループホーム 第二こすもす (ユニット名 2階)
所在地	福岡県大川市大字津390-9
自己評価作成日	平成25年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ヶ月に1回のふれあい交流会を行い利用者、家族、地域の方との交流を行っている。グループホーム内にもお話し相手ボランティアや近所の幼稚園との交流会、他にも大正琴等の訪問もあり、利用者の皆様に楽しんで頂いている。地域の方からは自宅でもれた花や果物・野菜等を頂いたり、グループホームでは行事等で作ったクッキーや作品等を日頃のお礼に持って行ったり、行事に参加して頂いたりと共に生活を楽している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人が母体である事業所は、住宅街に立地した2階建てのホームである。法人全体の理念に「敬愛～尊敬と親しみの気持ちを～」があり、四つの基本方針と四つの行動指針をホーム内のいたるところに掲示して、全職員が理解し共有している。職員は利用者として日々過ごす中でひとり一人の利用者がその人らしく安心して過ごせるように支援している。地域の行事や祭り、花見などの外出も多く地域交流も盛んである。管理者、職員は地域の方との挨拶を欠かさず、一軒一軒出向き、ホーム行事の案内を口頭で伝えて参加を促すなどして、今では「お互い様だから」と言い合える関係づくりができています。料理教室のクッキーやおはぎ作り、避難訓練にも参加してもらっている。避難場所には、事業所前の民家の庭としており協力体制ができています。地域との交流を深めながら家庭的な環境を大切に支援を実施しており、地域に根差したホームとして期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体である社会福祉法人の理念を持ち、敬愛精神で取り組んでいる。ホール、寮母室、廊下等、目に付く所に掲示し意識向上を図っている。	法人全体で「敬愛」を基本理念とし、地域密着型サービスを加味した基本方針と行動指針を掲げている。更にホーム独自で「やすらぎとよるこびのある毎日」をホームの要所々に掲げ、全職員で共有し、日々の業務の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加しており、日常生活の中でも挨拶等を通して顔なじみの関係を作っている。	自治会に加入しており、回覧板や市報だけで行事や祭りの案内があり利用者も一緒に参加している。また、管理者が近隣を訪問して料理教室などホームの行事に参加を促したり、利用者の作品や手作りのしめ縄を配ったり、散歩の途中でゴミ拾いをするなど地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	関連施設と合同で地域の方を対象に公民館でミニ講話を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議に行政や地域、家族の方に参加して頂き当ホームの現状をお話している。消防訓練にも参加して頂いている。	運営推進会議は終了時に次の開催日を決めている。利用者の状況や活動報告、ヒヤリハット・事故報告等をしている。消防訓練に地域住民の参加を得るために見学から始めることや、コンセントや器具からの発火防止の為に埃の付着を防止するとよいこと等の助言をいただいております、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回、介護相談員に来て頂きグループホームの雰囲気や現状を見て頂いている。	2ヶ月に一度、市の介護相談員の訪問が受け、利用者や話をされたり、一緒にゲームに参加して利用者の状況を把握されている。以前、利用者の困難事例を相談したことがあり、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や勉強会で再確認し職員全体に意識を浸透させている。	法人全体の勉強会に参加し、事業所でも会議の中で参加できなかった職員には資料を基に伝達研修をしている。玄関は防犯上18時半から9時までは施錠している。日中は開錠しており、自由に出入りができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュース等で取り上げられた問題については職員に注意を呼びかけている。勉強会や会議等で取り上げ職員間の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の事情を職員全員が把握し擁護している。勉強会や会議の際に理解を深めている。パンフレット等を家族やお客様にもいつでも手に取って見て頂けるように玄関に置いている。	権利擁護に関する勉強会を法人で行い、職員はどのような利用者に必要な制度であるかは理解している。現在、制度を必要とする利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、内容に沿って説明を行っている。家族の状況や、不安に思われている事等、尋ねている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には毎日の生活の中で意見を聞き、不満や苦情がないか確認している。家族には面会時や、電話連絡時に要望や意見を聞きサービスの向上に繋げられるように努めている。	家族会はないが、料理教室でおはぎやクッキー作りに参加していただいたり、面会時に意見や要望を聞いている。家族より、外出の要望があり、送迎の支援を行ったことがある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上司も出席されるグループホーム会議で、日頃の状況や困った事等、意見を出しあい助言を頂いている。。	運営に関する意見や提案は言いやすい環境にある。外出等の計画も言いやすく、法人の交流で花見の場所や見頃などの情報交換を行い、利用者にとって、適した外出支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が目標を定め、その実行具合に応じて代表者は評価し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	経営母体である、社会福祉法人が職員を採用している。性別、年齢、障害の有無等、関係なく受け入れている。	職員の採用にあたっては、性別、年齢等で排除はしていない。ホーム内の環境作りや手芸等、得意面や能力を活かし業務に取り組んでいる。休みの希望を取り入れた勤務体制となっており、資格取得等の休みにも配慮がなされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や勉強会等、折りに触れ確認している。	法人全体の勉強会に参加し、ホームでも日頃管理者より「自分の身に置き換える」「自分だったらどうですか」と尋ね、利用者の立場に立った支援ができるように心がけている。自分を見直すためのチェックを実施することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の法人全体勉強会やグループホーム内での勉強会を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者の意見交換会を行っており、他のグループホームの状況を聞いたり、困難事例等を話し合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との関わりを多く持ち、話を傾聴する機会を作る事で、本人の要望を聞きだし信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望、不安な事等聞き出来るだけ受け入れるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を良く聞き、グループホーム以外のサービスが望ましいと判断した場合は他の事業所や関係者の紹介をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自らすすんで掃除や洗濯物畳み、食事の準備、後片付け等手伝って頂いている。職員のエプロンのボタンが取れかかっているのを見て付けて下さった事もあった。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事時、家族に声掛け一緒に参加して頂くことで、家族とも良好な関係が出来ている。美容院や洗髪等、一緒に出かけられる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族が希望される病院や美容室等は継続して利用して頂いている。	馴染みのある方に暑中見舞いや年賀状を出しており、利用者も字の書ける方は書いてもらっている。友人の訪問時には、お茶の接待で歓迎したり、家族の送迎で行きつけの美容院で髪を染める等、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を把握し席を配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所され、同法人の特養等に入所された方もおられ、様子を見に行きお話をして不安を軽減して頂くよう努めている。退所された方が亡くなられた場合でも職員で通夜に参加させて頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時等、本人の希望、意向を確認しプランに活かせるように努めている。又、意思伝達が困難な方の場合、本人本位に検討し、利用者の思いや意向を掴めるよう努めている。	言葉に発しない方にも諦めずに声かけを行い、活動に参加して頂き、反応をみて思いをくみ取るようにしている。「早く起きたくない」という希望を聞いた時には、申し送りノートで他職員と情報を共有し、一番最後に起床の声かけをする等、細やかに対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から十分に話を聞きこれからのグループホームの生活の中で活かせるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、介護記録等に入居者の状況を記入し職員全員が情報を把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当職員を決め、気付いた事を言って貰ったり、家族、本人等の意見を取り入れた介護計画を作成している。	3ヶ月毎に、本人、家族、職員、介護支援専門員の参加で担当者会議を開催し、それぞれの担当職員が状況確認と評価や気付きを介護支援専門員に報告し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の暮らしの様子や、本人の言葉、排泄、食事、水分摂取量等を記録し、それを日々のケアや介護計画に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空床を利用したショートステイの受け入れ体制は出来ている。家族が利用者の居室に宿泊したいと要望があれば、支援を行う。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	受け入れている。シルバーボランティア、ケアビクス等随時、受け入れている。消防署からは、防災訓練等で指導に来て頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人及び、家族に希望を聞き、希望される病院を受診して貰っている。又、随時、医療機関との連絡を取っている。	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。家族が受診に同行できないときは、職員が同行支援をしている。協力医には2週間毎に健康状態を報告し、適切な医療が受けられるように支援をしている。受診後は家族へ受診結果を報告し情報の共有をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師はいないが、いない分、職員全員がちょっとした変化に気づき、主治医に相談したり指示を得たり等して医療と密に連絡を取っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院中もお見舞いや、必要に応じ、洗濯物の交換に行き、利用者の状態を見たり、病院関係者や家族との情報交換をし、早期に退院できるよう連携に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今のところは実施していない。	看取りについてのマニュアルがあるが、これまでに看取りまで希望された方はいない。現在、100歳を超えた利用者があるので、今後の支援や事業所としてどこまでできるか、状況に応じて話し合いを重ねていく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や、初期対応について勉強会で学んでいる。急変時の対応の仕方についてはその手順を紙に大きく壁に貼っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜を想定した訓練を行っている。近所に避難場所をお願いし、訓練時には、市の職員、地域、消防署の協力を得ている。	スプリンクラーを設置しており、年2回避難訓練を実施している。今年3月の訓練は消防署員と地域住民10名が参加している。地域住民の「お互い様」という言葉で地域と協力体制を築いている。非常食の備蓄等今後に向けてマニュアルの見直しを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の出入りは必ず、許可を得た上で行っている。言葉掛けに対しても、優しい言葉かけを行うよう心がけている。	個人ファイルは寮母室の棚で管理し、外部からは見えないようにしている。広報誌に写真を掲載する場合は、その都度家族に了承を得る等、個別に対応しており入浴やトイレ誘導時の声かけもプライバシーに留意した声かけを行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で利用者の希望や好みを聞き選びやすい場面作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歌をうたわれる方、昼寝をされる方、テレビを鑑賞される方等、それぞれの一日の過ごし方を尊重し、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装等、本人に選んで頂いたり、出かける時はその人らしいおしゃれを気をつけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや、片付け等を手伝って頂いている。献立は職員がメニューを作り利用者の希望も取り入れている。	キッチンの横にリビングがあり、調理する姿や匂いが漂っている。おしぼり配り等の役割があり、同じ食事を職員も一緒に食べているため、食べやすさや嗜好の確認ができています。衛生チェック表を毎日記入し、消毒などの衛生面の管理も徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分等摂取量のチェック表を作り、記録して把握している。摂取量が少ない方には食事の形態を考えたり、好まれる飲み物を提供したりしている。夏の間の熱中症対策として補水液を毎日準備し、摂取して頂いた。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者それぞれの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。又、食塩水での嗽により、感染予防に努めている。初めて入歯を作られた方には、義歯に慣れて頂くため、毎日少しずつ義歯を付けて頂く支援を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、排泄パターンの把握に努めている。時間毎や希望時等にトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	現在おむつ使用者はなく、個人の排泄パターンを把握し、時間毎に誘導している。排泄一覧表で1日の排泄状況がわかるように工夫して、トイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の他、午前・午後、水分補給の機会を作り、飲水量が増えるに努めている。ストレッチや歩行運動で身体を動かして頂いている。又、毎朝、排便の有無の確認を行い必要時には処置を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回のペースで入浴して頂いている。拒否があった場合はタイミングを見て清拭や足浴を行っている。	午後の時間帯で入浴支援をしている。週3回は入浴できるよう支援しているが、拒否がある場合は職員を交代したり、家族の協力を得たり、翌日再度声かけるなど無理強いはせず、タイミングをみて対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	孤独感や妄想等で長く居室での安眠が出来られない時には声掛けを行ったり職員が見える畳上で休んで頂く事もあり。その方の状態に合わせて休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が確認できるよう、薬の説明書をファイルしている。薬の内容が変わった時には、申し送りノートに記入し全員がわかるようにしている。状態に変化が見られた時には、主治医に報告し支持を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、歌、貼り絵等、個に応じた楽しみ事、気晴らし、役割の支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ショッピングや行事等に家族も参加して頂き、楽しい一時を過ごして頂いている。毎月計画を立てて外出の機会を作り、気候の良い時は近所を散歩して頂く等して気分転換を図って頂いている。	毎月外出行事を計画し、季節の花見にも出かけている。行事を通して家族と一緒に時間を楽しめるように支援している。近くの神社まで気候が良ければ散歩に出かけ、地域行事にも積極的に参加している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にショッピングに同行し、希望を伺ながら、品物を選び職員、見守りにて支払いをして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話の取り次ぎを行っている。年賀状等には本人の状況を職員が書き添えている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光はスクリーンにて調節し気温や体調に応じてエアコンの調節を行っている。	天窓から明るい日差しが注ぎ、浴室やトイレも明るく清潔である。リビング横には畳コーナーもあり、コスモスや彼岸花が活けられ、季節感が感じられる貼り絵などが飾られている。現在使用していない1階の部屋を活用して訪問者とゆっくり面会できるよう配慮がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中心にダイニングテーブル、椅子、畳の間等、思い思いのまま過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、本人の馴染みの物や使い慣れた品物を居室に持って来て頂くよう家族に相談している。	オープンクローゼットがあり、使いやすく整理されている。持ち込みは自由であり、家具や布団も家族と相談の上で持参されたり、本人が安心して過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差なく、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置している。又、トイレや居室に迷われないよう、分かりやすく貼り紙をして表示している。		